

LETTER FROM COPENHAGEN
コペンハーゲン通信 PART V
4



デンマーク王国 DATA

人口562万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

本会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



山口 晃平

在デンマーク日本大使館二等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

デンマークの外食事情

英国エコノミスト誌が毎年発表する物価水準の指標、ビッグマック指数(2015年)によれば、デンマークのビッグマック価格は5.08米ドル(≒631円、7/31現在、以下同様)で、世界第4位に位置しています。ちなみに日本は2.99米ドル(≒370円)、世界第39位です。ビッグマックに限らず、外食の値段は日本と比較すると総じて高めで、ファストフードのセットで大体60~100DKK(デンマーク・クローネ、≒1,092~1,820円)、ちょっと気の利いたデンマーク料理の有名店であれば200~400DKK(≒3,640~7,280円)くらいの出費を覚悟する必要があります。日本勤務時には、どこにお昼を食べに行くか考える楽しみを満喫していた私も、デンマークではもっぱらお弁当持参の毎日を送っています(もちろん、妻のお弁当に不満があるわけではない点、念のため申し添えます)。

デンマークの外食費が高い要因は、25%の消費税に加え、店舗の賃料や材料費も総じて高めでることなどいくつか考えられますが、特に価格の上方圧力となっているのは人件費ではないかと思えます。デンマークのファストフード店の最低時給は、111.85DKK(≒2,035円、18歳未満は64.4DKK(≒1,172円))と、日本人である私の感覚からすると非常に高額です。最近、米国各地においてファストフード店の最低時給を段階的に15米ドル(≒1,870円)に引き上げるとのニュースを目にしましたが、それ以上に高い水準であることに、とても驚きました。デンマークには日本や米国のような国や自治体ごとの最低賃金制度はありませ

んが、多くの企業が加盟する経済団体と労働組合間で職業別に交渉が行われ、労使間の最低賃金を年単位で見直しています。前述のファストフード店の最低賃金は、他の職業別の労使交渉において、ベンチマークと位置付けられているようです。もっとも、時給が高いとはいえ、高い国民負担率(67.8%、日本は40.5%、2012年、出典：財務省)や高い物価水準など、他国と異なる点も多く、一概に比較はできませんが、少なくともデンマークでは、適正な賃金水準として受け入れられているようです。

慣れというのは恐ろしいもので、住み始めてからしばらくすると60DKK(≒1,092円)と言われても何だか600円くらいの感覚になっているから不思議なものです。また、外食費をはじめ何かと物価が高いイメージですが、デンマークの名譽のために申し上げますと、日本より格段に安いものもあります。その一つが、ビールです。あまり知られていないかもしれませんが、デンマークはビールの世界売り上げ第4位の大手ビール会社、Carlsberg社(デンマーク語読みではカールスベア)を擁するビール大国なのです。デンマーク人はビールが好きな方が多く、今のところビールが苦手というデンマーク人には会ったことがありません。そのせいもあってか、ビールの値段は非常に安く、スーパーでは330ml缶×24本で95DKK(≒1,729円、一本当たり約72円)くらいから売られています。日本では良いことがあったときくらいしか食卓に並ぶことのなかった「ビール」ですが、この値段であれば気兼ねなく「ビール」で晩酌を楽しむことができます。ビール好きの多いデンマーク人にとっては、もしかしたら外食費よりもよほど重要なことなのかもしれません。